

28. ばれいしょ

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	—	—	
	ドイツボルドーA	散布	—	—	
M3	エムダイファー水和剤	散布	収穫 14 日前まで	7回以内	
27+M3	カーゼートP Z水和剤	散布	収穫 7 日前まで	4回以内	
M3	(マンゼブ) ジマンダイセン水和剤	散布	収穫 7 日前まで	10回以内	
	ベンコゼブ水和剤	散布	収穫 7 日前まで		
7	バシタック水和剤 7 5	5~20 秒間種いも浸漬	植付前又は貯蔵前	1回	
	バシタック粉剤	種いも粉衣	植付前		
27+11	ホライズンドライフルアブル	散布	収穫 14 日前まで	4回以内	
21	ランマンフルアブル	散布	収穫 7 日前まで	4回以内	
M1	硫酸銅	ボルト液を調製して均一に散布する	—	—	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシン-100	5~10 秒間種いも浸漬	植付前	1回	
		種いも散布			
25	アグレプト水和剤	5~10 秒間種いも浸漬	植付前	1回	
31+24	カセット水和剤	種いも瞬間浸漬	植付前	1回	
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	—	—	
36	スキャブロックSC	種いも瞬間浸漬	植付前	1回	
-	ソイリーン	耕起整地後、30cm 間隔のトドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ボリエレン、ビニール等で被覆する。	作付の 10~15 日前まで	1回	
36	ネビジン粉剤	作条土壤混和	植付時	1回	
		全面土壤混和			
29	フロンサイド粉剤	全面土壤混和	植付前	1回	
M3+4	リドミルゴールドMZ	散布	収穫 30 日前まで	1回	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオン乳剤	散布	収穫 14 日前まで	4回以内	
4	アドマイヤー水和剤	散布	収穫 14 日前まで	2回以内	
1	(アセフェート) オルトラン水和剤	散布	収穫 30 日前まで	2回以内	
	ジェイエース水溶剤	散布	収穫 30 日前まで	2回以内	
1	ダイアジノン水和剤 3 4	散布	収穫 7 日前まで	3回以内	
3	テルスター水和剤	散布	収穫 3 日前まで	4回以内	

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫 14 日前まで	4 回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）

注3) 蚕毒・魚毒については、「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
そ う か 病 (O)	植 付 前	<p>1. 種いもは、無病いもを用いる。 [参考農薬]</p> <p>1. 土壤処理剤</p> <p>(1) ネビジン粉剤を 10a 当り 60kg 全面土壤混和するか、10a 当り 30kg 作条土壤混和する。</p> <p>(2) フロンサイド粉剤を 10a 当り 30～40kg 全面土壤混和する。</p> <p>(3) ソイリーンを 10a 当り 300 (1 穴当たり 3ml) を 30cm 間隔で千鳥状に深さ約 15cm に注入して、直ちに覆土し、ポリエチレン、又はビニール等で被覆する。</p> <p>2. 種いも処理</p> <p>(1) アグリマイシンー 100 の 40～100 倍液に 5～10 秒間種いもを浸漬するか、種いも 100kg 当り 2.5～3l を散布する。</p> <p>(2) アグレプト水和剤 60～100 倍液に 5～10 秒間種いもを浸漬する。</p> <p>(3) カセット水和剤 30 倍液、スキヤブロック SC の 50 倍液のいずれかに種いもを瞬間浸漬する。</p>	<p>1. 連作すると発生が増加する。</p> <p>2. 浸漬処理後は、いもを十分乾燥させる。</p> <p>3. ネビジンは、植付時の処理とする。</p> <p>4. フロンサイドは、人によってかぶれることがあるので、かぶれやすい人は使用しない。</p>
黒 あ ざ 病 (F)	植 付 前	<p>1. 種いもは、無病いもを用いる。</p> <p>2. 輪作する。</p> <p>3. パシタック水和剤 75 の 70 倍液に、種いもを 5～20 秒間浸漬するか、パシタック粉剤を種いも重量の 0.3% 粉衣する。</p>	<p>1. 浸漬処理後は、いもを十分乾燥させる。</p> <p>2. 粉衣処理は、乾燥した種いもに行う。切断前を原則とする。</p>
疫 病 (F)	開 花 期 を 中 心	<p>1. 4-4 式ボルドー液、エムダイファーワー水和剤、Z ボルドーの 400 倍液、ドイトボルドー A の 400～600 倍液、マンゼブ剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）600 倍液、カーゼート P Z 水和剤 800 倍液、ホライズンドライフルアブル 1,500 倍液、ランマンフルアブル 1,000～2,000 倍液のいずれかを散布する。</p> <p>[参考農薬]</p> <p>1. コサイド 3000、又はリドミルゴールド MZ の 1,000 倍液を散布する。</p>	<p>1. 開花始め、開花中、開花終りの 3 回以上散布する（葉裏によく散布する）。</p> <p>2. 降雨直前の散布は、防除効果が高い。</p>

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	植付時	1. 無病種いもを用いる。	1. 原種、採種ほでは、アブラムシ防除を徹底する。 2. ウイルス罹病株は、タバコ黄斑えそ病の発生源になる。 3. テルスターは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤーは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
	生育期間	1. 発病株は抜き捨てる。 2. アドマイヤー水和剤1,000倍液、アセフェート（オルトラン水和剤、ジェイエース水溶剤）、テルスター水和剤の1,500倍液、ベストガード水溶剤2,000倍液のいずれかを散布する。	
テントウムシダマシ	開花期中心	1. ダイアジノン水和剤3.4、アディオン乳剤2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 孵化最盛期は平坦地では6月上旬、山間高冷地は6月下旬である。この時期に1回の防除で効果が上がるよう葉裏に十分散布する。 2. アディオンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 3. アディオンはテントウムシダマシ類に登録がある。
ヨトウムシ	7月下旬～8月上旬	1. オルトラン水和剤1,000倍液を散布する。	1. オルトランの使用時期は収穫30日前までのため、特に注意する。